



警告のニューズレター「角笛」

発行日:2015年2月発行(第58号)

発行:警告の角笛出版

価格:100円(送料込みで200円)

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

【目次】

◎巻頭メッセージ:「教師による災い」 エレミヤ

◎証:御心を行うことを習慣に

◎お知らせコーナー:「新刊本の紹介」「日曜礼拝のご案内」「第39回黙示録セミナー」

[巻頭メッセージ]

「教師による災い」 by エレミヤ

[聖書箇所]ヤコブの手紙 3:1

3:1 私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。

今回は、「教師による災い」という題でメッセージをしたいと思います。聖書には、教師による災いに関する記載がある、などと言うと、聞いたことがない、そんなはずはないだろう、などという意見があるかもしれません。一見そう見えるかもしれません。しかし、聖書に関してそれは、**「表にも裏にも文字が書いてある巻物」**とも書かれています。以下のことばです。

[聖書箇所]ヨハネの黙示録 5:1

5:1 **またわたしは、玉座に座っておられる方の右の手に巻物があるのを見た。表にも裏にも字が書いてあり、七つの封印で封じられていた。**

聖書の表の記述には、どこにも教師による災いなど記載されていないかもしれませんが、しかし、その聖書の裏の記述を見るなら、たしかにそこには、教師による災いについて記載されているように思えます。このことを見ていきたいと思います。

<『教師の罪』とは何か？>

教師について記載してある聖書の箇所は冒頭のヤコブ書です。

[聖書箇所]ヤコブの手紙 3:1

3:1 私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。

教師は厳しいさばきを受けることが、ここで書かれています。聖書が厳しいという以上、それは、かけ値なしに厳しいさばきなのです。そしてどこまで厳しいか？と言うと、誤った教える教師は地獄、ゲヘナにまで落とされると、以下で主御自身が語られています。

[聖書箇所]マタイの福音書 23:29,33

23:29 忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。

23:33 おまえたち蛇ども、まむしのすえども。おまえたちは、**ゲヘナの刑罰をどうしてのがれることができよう。**

主はその当時の教師である律法学者、パリサイ人たちに対して、**「おまえたちは、ゲヘナの刑罰をどうしてのがれることができよう。」**と語られました。主が言わんとすることは、すなわち、彼らは当然のように、ゲヘナ、地獄の刑罰に入ると、

「教師による災い」 エレミヤ

宣言しているのだと理解できるのです。

聖書の教師をしていて、その結果が地獄へ入る？これは恐るべき結論ですが、主が言われている以上、現実にかかることだと理解できます。しかし、いったいなぜ、これらの教師たちはあろうことかゲヘナ、地獄へ入ることになってしまったのでしょうか？

その理由として主の言われた、「**蛇ども、まむしのすえども。**」とのことばにヒントがあるように思われます。「蛇」「まむし」は、エデンの園の蛇に関係があります。エデンの園の蛇はエバを惑わし、神の言われたことばを曲げ、偽り、彼女を永遠の命の木から追放したのです。彼女はいわば永遠の命から遠ざけられてしまったのです。

エデンの園の蛇と同じく、これらの偽善教師たちは、神のことばの教師と称しながら、そのじつ、神のことばと懸け離れた偽りの教理を語り、その結果、彼らに聞き従った民衆は皆、永遠の命から切り離される、それゆえこれらの教師たちは、「蛇」「まむし」と呼ばれるのです。主の言われたことばには意味があるのです。「蛇」「まむし」は、かわいい鳩やバンビと異なり、恐ろしい生き物であり、咬まれれば命を失います。死の毒を持っているのです。同じように、「蛇、まむしのすえ」と呼ばれた偽りの教師に聞き入り、その教理を鵜呑みにしていくなら、そのような会衆は永遠の命を失うのです。「蛇」とのことばには、そのような意味合いがあるのです。彼らに関して、主は以下のようにも語りました。

【聖書箇所】マタイの福音書 23:15
23:15 忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。改宗者をひとりつくるのに、海と陸とを飛び回り、改宗者ができると、その人を自分より倍も悪いゲヘナの子にするからです。

ここに書かれているように、彼ら、すなわち偽善の教師に聞き従い、その教理を鵜呑みにする人は、結果として天の御国どころか、ゲヘナ、地獄へ直行するのです。ですから明らかに教師による災いということは教会に存在するということ、またそのような災いをもたらす教師は永遠の命を得るところか、自らも厳しい裁き、ゲヘナのさばきへ直行することが分かるのです。

＜現代における教師による災い＞

さて、現代に生きる我々はこれらの聖書の語る教師による災いに関してどう理解すればよいのでしょうか？これらの事柄は現代ではもう無縁なのでしょうか？そうとも思えません。逆に聖書はこう語ります。

【聖書箇所】Iコリント人への手紙 10:11
10:11 これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです。

聖書は世の終わりに臨む我々への教訓として書かれているのです。ですので、聖書にイエスの時代の教師たちの失敗、災い、さばきに関して書かれていることには意味があり、それは単なる昔話、研究のためではなく、逆に我々への戒め、教訓のためなのです。すなわち現代の教師も、もし偽善的な歩みをするなら、かつての彼らのように会衆を惑わし、地獄へ導き、自らもゲヘナに直行する恐れがあるのです。その教訓を学ぶために書かれているのです。残念ながら聖書のどこにも、教師や牧師は決してゲヘナへは行かないなどと太鼓判を押している箇所などなく、皆無なので、真面目にこのことは考え、考慮すべきことなのです。

教師が災いになる、このことは現代においても真実であり、たとえばカトリックの教師であるローマ法皇や神父たちのことばは、信者にとり、災いになっています。彼らのことばを盲信するなら、どう考えても天の御国に入れそうもありません。

彼らは、進化論はあまりにも科学的なので、否定出来ない（創世記は神話？）と言い、また聖書には間違いがある、間違いが無いのはローマ法皇のことばのみ、などとトンデモない教理を語ります。また、キリスト以外にも救いがあると言い、地獄は無いと語ります。これらの聖書の教えを真っ向から否定するような教師に従って、天の御国に入れるとは思えません。逆にこれらの偽りの教師も、彼らに惑わされる会衆も、主の言われたようにゲヘナに入る可能性があります。もう少し、ヤコブ書の箇所を見いきましょう。

「教師による災い」 エレミヤ

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙 3:2

3:2 私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。

ここでは、「もし、ことばで失敗をしない人がいたら」として、教師の奉仕の中で、特にことばに関することに、失敗や間違いが多いことを語ります。そうです、神のことばを正しく語る、このことが難しいのです。そして残念ながら、どんなに気を付けてもみことばを語ることで何の失敗も行わないことは難しいのです。

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙 3:3,4

3:3 馬を御するために、くつわをその口にかけて、馬のからだ全体を引き回すことができます。

3:4 また、船を見なさい。あのよう大きな物が、強い風に押されているときでも、ごく小さなかじによって、かじを取る人の思いどおりの所へ持って行かれるのです。

大きな馬を制御する小さなくつわ、これは大きな教会全体を導く教師をたえたものです。また、大きな船を御する小さなかじも同じです。

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙 3:5

3:5 同様に、舌も小さな器官ですが、大きなことを言っているのです。ご覧なさい。あのよう小さい火があのような大きい森を燃やします。

小さな器官である舌は、語る働きをする器官として教師のたとえです。それは大きな体、すなわち教会全体に影響を及ぼします。火は霊的な事柄を指すたとえです。舌である教師が悪霊の惑わしに入るときにその被害は甚大であり、教会全体が悪霊の惑わしに入っていきます。「**ご覧なさい。あのよう小さい火があのような大きい森を燃やします。**」とはこのことを指して語られています。

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙 3:6

3:6 舌は火であり、不義の世界です。舌は私たちの器官の一つですが、からだ全体を汚し、人生の車輪を焼き、そしてゲヘナの火によって焼かれます。

舌、すなわち悪霊に惑わされた教師により、教会全体が汚され、ついにはゲヘナの火によっ

て焼かれることまでここには書かれています。このことは今現実にペンテコステ、カリスマ系の教会で起きていることです。霊の見分けのない教師により、悪霊的な聖霊の第三の波のリバイバルやベニー・ヒン、ロドニー・ハワードなどの悪霊的な器が教会に紹介され、多くのクリスチャンが悪霊の火で焼かれています。

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙 3:7,8

3:7 どのような種類の獣も鳥も、はうものも海の生き物も、人類によって制せられるし、すでに制せられています。

3:8 しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。

ここでは舌、教師を制御することは誰にもできないことが語られています。このことは本当です。たとえばローマ法皇は、マリヤはキリストと共同の贖い主だ、などと聖書に反対するともんでもない教理を語るのですが、誰も彼を止めることはできません。

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙 3:9,10

3:9 私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます。

3:10 賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あってはなりません。

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙 3:11,12

3:11 泉が甘い水と苦い水を同じ穴からわき上がらせるというようなことがあるでしょうか。

3:12 私の兄弟たち。いちじくの木がオリーブの実をならせたり、ぶどうの木がいちじくの実をならせたりするようなことは、できることでしょうか。塩水が甘い水を出すこともできないことです。

ここでは、教師の問題点として同じ口から賛美と呪いの両方が出てくるのが語られています。また、甘い水と苦い水が同じ場所から出てくるとも語られています。水はたとえであり、霊的なことを指します。甘い水は聖霊のたとえであり、苦い水は悪霊のたとえです。すなわち同じ一人の教師のメッセージにより、ある時は聖霊が下され、ある時は悪霊が下される、という問題に関して語られているのです。

「教師による災い」 エレミヤ

このことはあってはならないことですが、しかし、実際には往々にしてあり得ることです。教師が偽善的であり、歩みが正しくないなら、そのメッセージを通して悪霊的なものが下されることがあり得るのです。メッセージを聞くという時に、我々は教理や知識的なものしか思い浮かべないかもしれませんが、聖書はメッセージを通して霊が下されることを語ります。そしてあろうことか、往々にして教会のメッセージを通して悪霊的なものが下される危険に関してここでは語られているのです。

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙 3:14

3:14 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります。

この箇所も教師の誤り、間違いについて語る箇所です。ここでは教師が持つ「**苦いねたみ、敵対心、誇り**」に関して語られています。教師間のねたみや敵対心、誇りなどは教会で公には語られませんが、実際には大いにあることです。神は人の心を見通します。そしてそれらのねたみや敵対心、誇りが教理に向かい、「大向こうをうならせてやろう」「誰も知らない教理を語ってやれ」などとして、聖書の真理から外れたトンデモない教理を語るようになるのです。このような教師の罪があるのです。

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙 3:15,16

3:15 そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。
3:16 ねたみや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行ないがあるからです。

しかし、それらの「画期的な教理」とは、じつは神から来たものではなく、逆に地、この世に属し、悪霊に属する教えであることを知みましょう。悪霊に属する教えは今のキリスト教会

には多くなっていますが、私の理解ではその際たるものはあの艱難前携挙説（二段階携挙説）、ディスペンセーション主義です。これらは19世紀に英国のJ.N.ダービーにより、キリスト教会に持ち込まれた悪霊の教えです。

ディスペンセーション主義とは、要するに時代区分ということのようで、教会時代とは一時的なもので、それは教会の携挙と共に終わる、それと共に異邦人の時代は終わる、終わりの時代には、もう教会は存在しない、次の時代である終わりの時代の主役はイスラエル（ユダヤ）人であり、艱難時代の苦難とは、皆ユダヤ人が会うものである、ということです。もし本当ならクリスチャンにとり、結構毛だらけのような教えです。

しかしこれは、深謀遠慮に満ちた悪霊の教えであり、このようなインチキ話を本気にしたクリスチャンは、もう誰も終末のことなど本気で心配せず、備えもしなくなるのです。まさにクリスチャンの終末の備えを崩すために備えられたような悪霊の教えなのです。



蛇は神のこぼを改ざんし、永遠の命を奪う

「教師による災い」 エレミヤ

＜聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦う＞

話は変わりますが、ユダはその書簡の中で「**聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう**」語っています。以下の通りです。

[聖書箇所]ユダの手紙 1:3,4

1:3 愛する人々。私はあなたがたに、私たちがともに受けている救いについて手紙を書こうとして、あらゆる努力をしていましたが、**聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう**、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じました。

1:4 というのは、ある人々が、ひそかに忍び込んで来たからです。彼らは、このようなさばきに会うと昔から前もってしるされている人々で、不敬虔な者であり、私たちの神の恵みを放縱に変えて、私たちの唯一の支配者であり主であるイエス・キリストを否定する人たちです。

ユダがここで言う「**聖徒にひとたび伝えられた信仰**」とはどのようなものなのでしょう？たとえば再臨に関して、ユダや初代教会時代の人々はどのような信仰を持ち、どのような信仰を継続しようと戦っていたのでしょうか？

このことは初代教会時代の資料を調べれば分かります。そして結論を言うなら、初代教会のクリスチャンたちは誰も彼もすべからく、いわゆる「**艱難後携挙説**」を支持しており、彼らはそのために戦っていたのです。彼らの誰一人、艱難の前に挙げられるなどという、おかしい教理を信じている人々はいませんでした。

ですので今の時代に生きており、艱難前携挙説を受入れているクリスチャンは残念ながら、もうユダの言う、「**聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦って**」おらず、逆に彼の言う「**ひそかに忍び込んで来た**」異端教理に敗北している可能性があります。

ですので私たちはよくよく、これらの事柄を自分の目で見、吟味して歩みましょう。なぜな

ら繰り返すようですが、教師に対するさばきは厳しいものとなるからです。このような異端教理を広めて会衆を滅びに惑わす教師は、それこそゲヘナのさばきに会う可能性があるかもしれません。

ユダは上記箇所、「**ある人々が、ひそかに忍び込んで来たからです。**」として、ひそかに忍び込む異端に関して述べています。そしてそのような異端を受け入れるなら、「**私たちの神の恵みを放縱に変える**」ことが描かれています。

このことばは、不思議や艱難前携挙説、二段階携挙説の異端に通じます。なぜなら艱難前携挙説を受け入れて、その歩みが敬虔になった人など一人もいないからです。逆に、誰でも彼でもクリスチャンであれば、艱難の前に挙げられる、との教理は多くのクリスチャンの歩みを敬虔や恵みから外し、逆に放縱や好き勝手な歩みへと変えてしまいました。このインチキ教理が広がって、敬虔なクリスチャンは皆壊滅してしまったかのようです。

悲しいかな、時代は変わり、かつてのように、「**聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦う**」クリスチャンはどこにも見出すことはできなくなりました。しかし私たちはこのバトンを受け継ぎ、このために引き続いて戦っていきたく願っています。



艱難前携挙説の偽りを広め忍び込んだ異端者J.N.ダービー

「御心を行うことを習慣に」

昨年12月の午前の礼拝メッセージでヤコブの手紙を通して教えていただいたことについて証をしたいと思います。その所のみことばを見てみましょう。

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙2:15-17

2:15 もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、

2:16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい。」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。

2:17 それと同じように、信仰も、もし行ないがなかったら、それだけでは、死んだものです。

今の時代のキリスト教会やクリスチャンがどのように言われていたり、考えていたりするかはともかく、しかしここでヤコブは、「**信仰も、もし行ないがなかったら、それだけでは死んだもの**」だと言われています。この時に以下のことをエレミヤ牧師がメッセージされていました。

15節にあるように、具体的に何かが無い、というときに分けたりして、それを行っていくようにしたいと思います。そうでないときに、たとえ信仰があったとしても、行いが無いというときに、永遠の命に至らない可能性があるからです。たしかに手紙を書いたのはヤコブですが、しかし聖書のことばは、どれもこれも神さまの靈感によって書かれていますので、当然のことながら神さまもそのことを言われています。でも、実際に多くの人（クリスチャン）は、神のことばを信じればいい、

行いは不要と思っているようです。

さらにそれに関連して、以下の聖句を通して述べられていました。

〔聖書箇所〕ルカの福音書10:25-28

10:25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスをためそうとして言った。「先生。何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」

10:26 イエスは言われた。「律法には、何と書いてありますか。あなたはどの読んでいますか。」

10:27 すると彼は答えて言った。「『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』とあります。」

10:28 イエスは言われた。「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」

28節でイエスさまが言われているように、「**実行**」することが「**永遠の命**」を得るポイントになります。このポイントで惑わされたり、違うものを掴むことのないように気を付けていきたいと思います。

引き続いて、以下の聖句から「行ない」について語られていました。

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙2:18,19

2:18 さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行ないを持っています。行ないのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行ないによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」

2:19 あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。

「御心を行うことを習慣に」

これらのみことばは、クリスチャンに対して言われています。残念ながら、信仰のみでは救いに至ることはありません。単に聖書を知っているだけで、行っていないというのは勘違いです。つまりみことばを行わないで、永遠の命を得るといえるのはあり得ません。ですから神のことばを實踐していくことに目を向けていきましょう。そのことで心を頑なにせず、ひよひよいとみことばを行っていきましょう。

以上のことを礼拝のメッセージでエレミヤ牧師が語られていたのですが、さいごの「**心を頑なにせず、ひよひよいとみことばを行っていきましょう。**」のことばに私自身は特に語りかけを受けました。これは当たっているかは分かりませんが、神さまの御心を行うことに関して、腰が引けてしまったり、荷が重く感じたりすることが私たちの生まれつきの性質に宿っているのでは？と思いました。こんな風に証を書いている私も人さまのことを何もとやかく言える立場ではないのですが、しかし「**ひよひよいと～**」というお勧めがありましたので、「さて、どうしたらいいものか？」と考えてみました。しばらく祈っていたら、神さまが「習慣にすることだよ」という風に私の心に語りかけを与えてくださったように思いました。たしかにそうかもしれないなあ・・・と思いました。

たとえば私の知人の方は結婚する前まで、寝る前に歯を磨く習慣が全く無かったそうです。しかし結婚をしてから伴侶に「夜、歯を磨かないの？」と言われて、その時から就寝前の歯磨きを実践するようになったそうです。

はじめは不承不承のようでしたが、しかし半年経ち、一年経ち、そして今では寝る前に磨かないと落ち着いて床に着けない、というほどまでに習慣化したそうです。

同じように、もし神さまの御心を行うことが身に着いていないのなら、今からでもそのことを習慣にしていけば良いのでは？と思います。はじめは慣れないためにぎこちなかったり、場合によっては周囲の人たちからは変な目で見られたりするのかもしれませんが、しかし継続していくうちにだんだんとそれが体にも馴染んでいくようになって、「御心を行わないと何だか気持ちが悪いな、落ち着かないな」なんていう風になれたらいいですよ。そしてそのまま生涯にわたって実践していくのなら、その延長線上において「永遠の命」が約束されますので、御心を感じましたらぜひ、行っていきたくと思います。しかし反対に、あのみことばも、このみことばも行わないというときに、先ほどのエレミヤ牧師のメッセージではありませんが、「永遠の命」を得られない可能性がありますので気を付けていきたくと思います。はじめのみことばに、「**信仰も、もし行ないがなかったら、それだけでは死んだもの**」と書かれていますように、「**死**」とは「罪」や「滅び」のことをも言われていますので、いくらクリスチャンと称していても、はたまた信仰を持って歩みをしていても、死後ろくでもない結末を迎えてしまう可能性がありますので、そのことは心に留めておきたいと思います。今回も大切なポイントについて語ってくださった神さまに栄光と誉れがありますように。

お知らせコーナー

●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税

注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。

警告の角笛出版:

tel:042-364-2327

fax:020-4623-5255

mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館

(tel:042-360-3311)

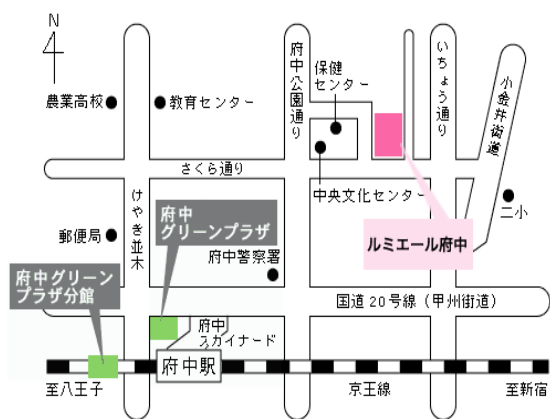
1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、

「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。

礼拝場所のURL:

http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html



●第39回黙示録セミナー by エレミヤ

黙示録、ダニエル書など終末に関するトピックを解説するセミナーです。

北海道から、広島から熱心なクリスチャンが参加しています。

場所:府中グリーンプラザ本館第5会議室(7F)上記地図を参照。

日時:2015年3月8日(日) 18:00-20:30

費用:入場無料、但しテキスト代 1,000 円(当日徴収)

定員:20名(先着申込順。満員次第締め切り)

主催:レムナントキリスト教会 (tel:042-364-2327)

申し込み:メールもしくはfaxで、「名前、住所」を記載の上、「セミナー参加希望」とお申し込みください。

fax:020-4623-5255,mail:truth216@nifty.com